

第2次那須塩原市総合計画 第4回 審議会

開催年月日 : 令和4(2022)年4月14日(木)

開催時間 : 14時00分～15時50分

開催場所 : 那須塩原市役所 本庁舎 303会議室

委員

No.	氏名	出欠	No.	氏名	出欠
1	飯島 恵子	○	13	平井 正美	○
2	市村 典子	○	14	鈴木 耕二	○
3	白居 芳美	○	15	小泉 秀夫	
4	高秀 正人	○	16	藤田 英之	○
5	大島 三千三		17	三浦 真紀	○
6	佐藤 和寿	○	18	三田 妃路佳	
7	岡田 陽介		19	室越 礼一	○
8	齋藤 優		20	山口 佳子	○
9	佐藤 幹雄	○	21	篠崎 剛史	
10	田中 志	○	22	山島 哲夫	○
11	田村 ひろみ	○	23	渡辺 将基	
12	橋本 秀晴	○			

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 中高生アンケート実施報告について

(資料1について事務局説明)

【会長】

今の説明について質問等があればお願いします。

【委員】

回答件数が1,003人ということだが、アンケートを依頼した数はどれぐらいか。

【事務局】

アンケートの対象として、中学生についてはGIGAスクール構想というもので生徒全員にタブレットが配布されているため、中学2年生全員を対象として実施した。高校生については、タブレットの環境等を考慮し、クラスを限定して調査した。全体で1,212人の児童を対象に行い、1,003人の回答数の内訳は中学生が851人、高校生が152人である。回答率としては83%の回答をいただいた。

【会長】

他に質問はあるか。

【委員】

33ページのまちづくりに関する生徒たちの意見が気になった。一度、三島中学校で全校生徒を対象として「拓魂講演会」というものを実施したが、時間の関係で「まちづくりについて、あなたはどのように役に立つと思いますか」というような質問を4つ出して、それを宿題として、後日いただいた。その結果、33ページに書いてあるようなすばらしい御意見とアイデアがたくさんでて、それについては市にも共有した。未来を担う子供たちが、その時代からこのようなことを考えていることが、なかなか那須塩原市もすてたものじゃないなど実感した。

特に、高齢者への支援活動については「ゴミ出しを手伝います」などの回答があり、また子育て支援では「小学校の児童に勉強を教えられますよ」というものがある。諸々非常に多くの意見をいただき、ここに書いてあるとおりの子どもたちの将来を担った前向きな意見ということで非常に興味深く見させてもらった。

(2) 前期基本計画検証結果報告について

(資料2について事務局説明)

【会長】

今の説明について、御意見御質問があればよろしくお願いします。

コロナでいろいろなことが達成できなかったものはあると思うが、コロナの影響がなくてできなかったものはあるか。

【事務局】

資料5ページ目を取組の成果や定量評価まとめているが、コロナ禍においてもある程度取り組むことができたという評価が多かった。どうしても人を集めるイベントがコロナの影響を受けているが、それ以外の部分については、コロナがあっても何とか取組の方ができていると考えている。

【会長】

コロナの影響以外で遅れたということは、あまりないということか。

【事務局】

そうです。

【会長】

それぞれの担当分野や関係しているところで質問があればお願いします。

【委員】

4ページの評価の検証方法について、下から2行目の「※1」のところだが、行政施策の自己評価をするときに進捗度評価というものをやると思うが、自己評価というものは往々にして、言葉は悪いが食わせものというか、外部評価と違い進捗度で評価するとすべて高評価という形で出てくる。この評価について、進捗度以外に出す方法はなかったのか。

【事務局】

進捗度評価についての外から見た視点の一つとして、「市民アンケート調査の結果」については、外からの視点で取組がどうだったかということで評価がされる部分かと考えている。しかしながら、アンケートと今回の検証は対比をさせていないものとなっている。

【会長】

これだけで全部を決めてしまうわけではなく、これは一つ自己評価という形で評価をしてみて、当然アンケートもやっているわけで、色々なところから意見を聞いて、総合して何をやるべきかっていうことを議論していくことになるので、これはそういうやり方で評価した一つの参考資料として考えていただくのがいいかと思う。

【委員】

さきほど委員がおっしゃった自己評価というものの見方で色々あるとは思いますが、先ほどの中学生・高校生のアンケートもどう今期の計画に反映されるのか、すごく興味深いところ。中高生アンケートで

色々あったが、2点あり、1つは設問の作り方のところで、那須塩原市が今後重点的に取り組むべきという中で、一番多かった「魅力あふれるまち」が漠然とした設問で、これは何なのだろうと思った。すべて入ってきてしまうので。

あとはもう一つの設問で、将来なりたい職業という中で、公務員とか、医療関係者が多かった。意外だったのは、医療関係者というものは医師とか看護師とか保健師があるのに、福祉とか介護の設問がなかったこと。これは絶対手落ちだったのではないかと思う。実際アンケートで答える中で福祉関係のものが多く生徒から出てきている。こんなことがあったらいいのではないかということで、高齢者支援とか障害者福祉とか子育て環境とか。

この検証結果を見たときに基本政策3の「誰もが生き生きと暮らすために」について、本当に中学生もそこではかなり意見を出している。たまたま私のバックボーンが福祉だからというわけではないが、どうしてもDXとかゼロカーボンにいくのはわかるが、重層的支援体制整備事業というものを国を挙げて動こうとしている。那須塩原市も昨年10月から包括的支援体制整備事業が動き出していると思うが、ただ誰一人取り残されないで安心して暮らしていくという究極の目標を実際に現場で支えるものだとは私思っている。そういう意味で、今回ちょっと福祉のところが見えてこないの、この先どうなっていくのかなと思いつつ、意見させていただいた。

正しい言葉としての包括ケアという言葉や共生社会的というところにテーマが絞られたらいいなど思っている。

(3) 人口推計（人口の現状）について

(資料3について事務局説明)

【会長】

人口推計だが、かなり厳しい状況だと思うが、これについてご意見ご質問等お願いします。

【委員】

5ページのところで25～29歳の男性が流入している、結構な数が流入しているが、その内訳としては戻ってきたのか、それとも全く新規で入ってきたのかというのは分かるのか。

【事務局】

人口推計になるため、あくまでその人を追って入ってきたのか出ていったのかということまでは、正直把握ができていないが、この年齢層で多く流入しているということになるので、流入している多くの割合の方が戻ってきているのではないかという仮説は立てられるものと考えている。

【会長】

これは大きいこと。しかし、女性が増えていないところを見ると、皆独身なのか。ここで男の人が増えても女の人は増えない。となると、栃木県全体がそうだが、男性の方が多くて女性がなかなか戻ってこない。要するに女性が就く職業があまりない、ということもある。これ男性が戻ってきていいなど思反面、女性が少ないのが気になるところ。

【委員】

年代別の人口というデータを企画部の方から4年ほど前に頂いたことがあるが、西那須野地区のある地区については30代から50代の男性の人口、これが女性の倍いる。これを分析はしていないが、端的に考えると、結婚していない男性が多いということが想定される。実際私が世帯を見ていると結婚していない男性が非常に多いと、社会現象という、そういうことが見て取れる。

【会長】

3ページの人口ピラミッドを見ても、30代も40代も男性の方が多。70代を超えると女性の方が多くなるが、60代後半でも男性の方が多というのは、なかなか厳しい。こうすると課題としては女性にどうやって戻って来てもらうかということが課題として出てくる。

【委員】

個人的というか、うちの家庭のことですが、娘が3人いて、2人は東京の学校にでてそのまま就職して帰ってこない、1人は地元の大学を出たのでそのままいるが、近所を見回しても女性は東京とか県外に出ると帰ってこないパターンが多い。やはり男性の場合は、大学出ても就職で市役所とか地元企業に帰ってくる方が多いが、どうしても女性は帰ってこないということで、娘に一度聞いたことがあるが、先程の中高生のアンケート調査と一緒に、買い物とか遊ぶところがない、そして、夜は真っ暗だといっていた。こちらには帰りたくないという話で言われたものなので、その辺でやはり女性にまた戻ってもらうというのは何かの施策が必要だと思う。

【会長】

女性が働きたいと思う事務職が多くないというのが栃木県の状況らしく、男性には就職先があっても女性にはない。それからこの那須塩原だと魅力がない、魅力というのは委員が言ったとおり色々な意味があると思うが、要するにそこの街に行くのが楽しいとか、色々あるというのが魅力だと思う。これも一つ大きな全体の課題になると思う。

【委員】

今のテーマは、非常に大事なテーマだと思う。将来の人口を考えたときに、多分那須塩原の問題、栃木県の問題だけじゃなく、地方の問題だと思う。東京に女性が出て行ってなかなか帰ってこないというのは大きいけど、会長がおっしゃるとおり働く場がないというのも大きいことだと思う。また、地方では女性に対する古い習慣やしきたりが残っているところもあり、それが嫌だということもある。ここはもう少し掘り下げて要因分析をしないと対策が打てないのではないかな。

【会長】

だいぶ長期的な課題になるかもしれないが、とにかく女性が戻って来たいようなまち、戻って来られるようなまちというのが結構重要な課題になると思う。

【副会長】

国際福祉大学病院のマロニエホテルというのがあるが、あそこに研修生が去年一昨年あたりから毎回百何十人來ている。研修期間が半年から1年だったと思うが、もう少し近辺に学生とか研修生が楽しめるような施設も欲しいとか、もちろん魅力とかの話としてもあるが、せっかく那須塩原市に來ても半年1年経つとなったときにそのまま帰ってしまう。

何人か病院の関係で残ってくれることもあるが、もう一度那須塩原市に住みたいなという、そういう環境づくりというのが地域としては必要なのかなと常々考えている。市の方でも取り組んでくれているが、民間の方も色々協力しなくてはと思っている。

【会長】

那須塩原の魅力というと自然豊かというのがまず出てきて、年配の方であれば、そういうのもいいが、若い人に自然豊かだといっても、なかなかアピールにはならないと思う。いいところだけでも。若い人に受けないのがなかなか辛いところ。

【委員】

さきほど委員から女性に対する習慣とかしきたりがあると話しがありましたが、特別なそういう古いしきたりや習慣はあるのか。

【委員】

このあたりの出身ではないのでどうかは分からないが、ある地方では、例えばお正月とかお盆とかの集まりがあったときに女性だけが働いていて、男性は飲むだけ、そういうのが耐え難いという話をきいた。

【委員】

特別この地域だけのそういう習慣やしきたりがあるのかと思ったが。今お葬式とかも斎場でおこなわれるし、個人にかかるしきたりっていうのはあまりない気がする。

【会長】

栃木県は普通だと思う。この辺の学生を見ているとそういう感じではなかった。ただ東京と比べるとかなり違うとは思う。

【委員】

昔、私の職場では女性がお茶を出していた。今は全くそういう事はなくなったが、やはりそういうところに差があると思う、ジェンダーの。昔は普通だと思っていたけれど、最近はそういうのはいけないという世の中の意識が高まっている。そこに地域差がひょっとしたらあるのかもしれない。

【会長】

いい論点が出てきたのでこれは骨子案のところでもた考えていきたい。

【委員】

塩原温泉は、ますます人口が減ってきており、観光を活性化させなければいけないとは思っているが、働く人が年々減っていて、実は外国人の方が多くなってしまっているのではないかなという状況である。本当に観光を活性化させたいのにも関わらず、働く人の人材不足が大変問題になっていて、前回前々回のこの場でもシングルマザーの方を都会から呼び込みたいと考えていたが、都会からこられる方というのは、交通手段として車を持っていないで、ましてやシングルマザーだと免許も持っていないことが多く、そこから始まるとなると車を持つまで1年ぐらいかかってしまう。そうすると時間もかかるし、お金もかかる。とにかく平行線をたどっている。

逆行しているのかもしれないが、大変な状態になっていて、お客様を呼び込みたいと思っただけでも、その人材不足によって、営業を停止するような旅館も出てきているのが現実であり、本当に困っている。

【会長】

女性にとって魅力があればと思うが、なかなか厳しい職場だと思う。

塩原温泉街のところは400号のバイパスのトンネルが開通したが、結構効果があるのではないかな。

【委員】

危険が回避されたことがとてもよかった。雨量200ミリに達すると通行止めになってしまうので、それが無くなることと、それから利便性が、留春大橋、潜竜峡トンネルが開通したことによって安全性が保たれたので、大変よくなっていると思う。

私共の宿は大網地区にあるが、まったく車が通らなくなり、大変静かになった。それからそういう場所ができたことによって、散歩する方の安全が守られており、道路のおかげでこれからの季節は大変ありがたいと思っている。

【会長】

塩原に行く際に、紅葉の時期なんかは混雑してなかなか行けないが、バイパスが出来てこれをうまく活用して人を行き来できるようになるといい。また、地域の子どもたちが高校にも通えるようになればいい。高校だと皆こちらへ来てしまうので、具体的にどう変わるかはわからないが、検討してみる必要がある。

【委員】

どの地域も同じなのかもしれないが、結婚しない男性が多いのではないかな。特に30から40代。結婚願望はあると思うが、一人である男性が多いと身近に感じている。結婚を促進するものがあると、より増えてくるのかなと思うが、遠くからお嫁さんをもたらしてくれば一番いいのかもしれないが。

【副会長】

女性も、男性と一緒にいたくないという女性も結構多いような気がする。30、40歳になってくると、このままでもいい、なぜ旦那さんの食事を作ってあげなきゃいけないのか、そういった女性もなかにはいると思うので、なるべく若いうちに出会えるきっかけがあるといい。那須塩原市でも出会いの事業をやっていると思うがどのような感じか。

【事務局】

結婚支援については、市独自でやっている事業と黒磯駅前の図書館のみるるの中に県の結婚支援センターのサテライトということで県北地区のセンターを設置している。登録している方は男性が多く、マッチングをするにしてもなかなか難しいところがある。

出来るだけ登録する方を増やしていきたいということで活動等している。実際に去年の実績として、市でやっているマッチングで、1組ゴールしたというところもある。

ここ3年の中で、年間1組ずつぐらいゴールしている方はいるが、それでも、もっとさらに出会う機会を増やしていかなければと思っている。市民協働推進課が窓口になっていて、できるだけそういった施策も展開していければと思っている。

【委員】

マッチングも良いかと思うが、男女の出会いは昔からそうだが、遊び場である。だから人が集まるような場所を作る。それも一つの受け皿になるかと思う。

(4) 後期基本計画骨子案について

(資料4について事務局説明)

【会長】

それでは、骨子案について、特に4つの重点推進テーマについて御意見等があれば。

【委員】

重点推進テーマの中のニューノーマル、なかなか馴染みのない言葉だが、その下に2行書いてあり、「柔軟に対応した地域づくり」のところになるとフレキシブルという文言が当てはまると思う。聞くところによると新年度が始まって、市長の挨拶の中で「ニューノーマル」という言葉を話されていた。うがった見方をすれば、その言葉をただここに付けただけなのか。だからニューノーマルと書いてある言葉がフィックスしない。市長は、コロナ禍においての話として、マスクをしたりソーシャルディスタンスをとったり、そういったことが日常的なことになると、それを踏まえてニューノーマルという言葉を使ったつもりで聞いているが、1番目の重点推進テーマにするのは馴染みが悪い。

【会長】

今いわれたようにニューノーマルというものは、コロナがあって生活の仕方が変わってきて、それに対応するという意味でよく使われているのは事実である。ただ意味からいえば、新しいノーマルであるから、今ここに書いてある「社会情勢の変化に対応した通常普通の生活」ということだと思う。だから必ずしも合わないということではないと思うが、その後のニューノーマルというのは、社会情勢の変化だというものをどう考えるか、色々社会が激変しているわけで、それに対応する地域づくりが必要という意味では、別におかしくはないと思う。おっしゃったとおりニューノーマルというものはコロナの話を受けて主に使われているのは事実だと思う。でも新しい、ニューノーマルで議論をしていってもい

いのではないかと、そういう意味だと考えれば。

【事務局】

御指摘のニューノーマルについては、会長からご説明していただいた内容にはなるが、当初はコロナによって生活が変わってしまったということで、ここに書いてあるとおり、変化の激しい社会において適応できるようなまちを構築したいという意味の言葉として、何かいい単語を模索していたところ、その中で今使われている「新しい日常」であるとか「ニューノーマル」という単語を使わせていただいた。こちらが伝わりにくいか、難しいということであれば、市民に伝わるいい単語をもう少し検討したい。

【会長】

コロナ禍の新しい社会情勢、社会情勢が変化したことに対応していくまちを作るという意味で、御議論していただければと思う。

【委員】

全体的によくできているとは思いますが、よくできている反面、とがりがないというか、那須塩原市でなくとも通用するものになってしまっている気がする。那須塩原市だからこそという様なものがあつた方がいいと思う。例えば、ブランドメッセージが「夢が動き出すまち」というところでは、起業する人たちにとってすごくこの街は特化して、ぜひこのまちで作ってくださいという様なブランドメッセージに通じた施策がここに入ってくることによって、このまちらしい基本計画になっていくのではないかと。

【会長】

色々な意味で那須塩原を色々な方向で売っているが、一つ環境については県内では進んで取り組んでいるので、CO₂の排出をゼロにしようと市長もおっしゃっているので、そういう点では企業誘致するとなると環境が大きな柱になるのではないかと。ここに掲げられているので、これも後期計画の大きな柱になるのではないかと。

【委員】

県北の拠点づくりというところで「魅力づくりが求められる」という文言が出ているのですが、先ほどから出ている、若い人たちがなぜ那須塩原市に戻ってこないのか、イコールそれは魅力がないからだというような話が出ていたかと思う。若くなくても、那須塩原市内に買い物に行ってみたくてというお店がない気がする。この辺だと宇都宮の方まで買い物に行かないとなかなか自分の気に入ったものが見つからない。どういう風にしたら若い人たちが地域に戻ってくるのか、そういう魅力づくりを大切にしていけるような骨子案ができるといいなと思った。

【会長】

「県北の拠点づくり」のところに那須塩原駅の周辺のまちづくりがあるが、これも大きなテーマになると思う。買い物の議論をやっていくと、買い物で言うと、例えば小山へ行くと宇都宮に行くか、簡単に大宮まで行ってしまふ。大宮はものすごい大きな商店街がある。だから小山には絶対大きなデパー

ト的なものがない。買い物って最寄り品を買うなら近くだが、買回り品を買う時ならどうしても遠くへ行ってしまふ。だから色々なアンケートでも「買い物、買い物」というのが出てくるが、それは頑張ってみてもなかなか難しい。すると大規模なショッピングセンターに行くかである。その大きなものってなかなか難しい。それもあればいいが、それ以外で魅力というと、若い人が那須塩原市で何を思い浮かべるかでいうとおそらく自然だと思う。那須塩原の駅前を思い浮かべる人はおそらくゼロである。あそこには何もない。那須塩原駅前には市役所を作る予定だが、人がそこに集まってきて集まる場所があれば、そこで色々な催し物があって、みんながそこに集まっていけばそこで若い人たちも自然と市役所の周り、那須塩原の駅前で色々なことがあったとか、そういう思い出があるから愛着が出てきて戻ってくる。要するに色々な活動の中で若い人たちが集まれるような場所があれば。お店というのは非常に大事だと思うが、お店にこだわっていると実際難しいので、それ以外になにか集まってできるようなことがあった方が現実的ではないかなと思う。確かに若い人たちが那須塩原って聞いたときに、何を思い浮かべるのかが非常に大事だと思っている。

【委員】

今の話につながるが、那須塩原駅ができたのはおよそ40年ぐらい前だが、その当時はこれからここはすごい発展して賑やかになるんだろうと思い描いていた。それから40年経ってもそれほど変わっていない。ただ、私は田舎者なのでたまに東京とか都会から新幹線で帰ってくると、ああ帰ってきたなとほっとする部分もある。都会化することはいいい面もあると思うが、逆に豊かな自然を活用して、新たな視点で那須塩原市の魅力を若い世代に伝えていってあげればいいなと思っている。

【会長】

那須塩原駅は、もともとは国会が来る話もあったわけだが、そういう話は無くなってしまった。

駅前は何にもないが、まちづくりビジョンというものを去年作ったが、例えば黒磯だと「みるる」ができた。あれは那須塩原市が誇る非常にいい建物で、マロニエ建築賞の大賞を受賞した建物ですが、ああいうものを那須塩原駅、とにかく何にもないところに成り代わってそこに市役所ができた時に人が集まれば、それだけで全然街のイメージが変わっていく。色々な可能性があるが、一つ那須塩原の駅前をどうまちづくりしていくのかというのは、那須塩原をこれから大きく左右していく大きな話になるので、この拠点づくりというのは重要な課題であると思う。

【委員】

県の魅力度とかが毎年でているが、おそらく大事なこととしてインナーキャンペーンが大事だということは常々そういう話をするときに出てくる言葉で、那須塩原市の人が外に行ったときに、自分の街ですごくここが良いということを外の人たちに言う、ということは自分たちがこのまちの素晴らしさを理解していて、外に向かってその人たちが宣伝していくっていう事が一つ大事なことである。さっきの中学生と高校生のアンケートで自然環境が出てきたが、彼らの世代は生まれたときから環境問題とか、ゴミは分別しましょうと教育されて、そういったことは当たり前になっている。逆に大人になる我々が「一緒に捨てちゃだめだよ」と言われる、そういうことが当たり前に入ってきている中で、環境のことを当たり前で考えているし、汚すなんてことは多分しないはずなので、これからこの街が汚れていくことはあまり考えられない。そういう街に我々は住んでいるから、学校の関係で東京に行きましたという

きに、「どこから来たの」、「那須塩原市」、「どういうところ。」、「自分が住んでいるまちは自然がきれいで、雪が降って綺麗だし桜も綺麗」、そんな話をして伝えることによって、今度私たちも行ってみよかなという接点ができてくる。

あとは勤めるところがあれば人は来るので、例えばスタートアップ企業を優遇するとか、企業誘致でカーボンニュートラルに積極的な企業が来る場合にはインセンティブ上げますよとか、というと全国各地、今インターネットでどこでも仕事ができるしまうので、一極集中が今コロナ禍で地方に分散している中で、じゃあ那須塩原市でうちの事務所、オフィス置いてみよかなとか、そういう話になるかもしれないので、行政が力を入れないとできない仕事ではあると思うが、そういう取り組みを積み重ねていく中で、少しずつ魅力度が増していくのではないかと、時間かかるがそんなことを感じた。

【会長】

栃木県の人あまり栃木県出身ってことを自慢しない。私は東京にずっといたが、知り合いに栃木県の人何人かいるが、調べて初めて栃木ってことがわかった。一方で他のある県では、言わなくても自分は〇〇県だって言うてくる。そこが県によって性格が違っている。ここが奥ゆかしいといのもあるが、もう少し積極的になった方がいいと思う。

【委員】

第2次那須塩原市総合計画の前期基本計画の検証結果のところ、輝きネットなすしおばらという団体が関わっている男女共同参画社会についてお話したい。長年にわたって輝きネットなすしおばらが実行委員会という形で男女共同参画フォーラムをお手伝いさせていただいた。ここ2年ぐらいコロナの影響で、人を呼んでたくさんの人を集めて講演会を開くということがなかなかできなくなってしまっていた。令和3年度はリモートとかそういった形のフォーラムをやってみようという話にもなったが、なかなかフォーラムに集まる方の年齢が高齢化してい、若い人たちがなかなか男女共同参画のフォーラムに来ていただけていない状況が何年も続いている。

そこでコロナ禍になってしまったことで人を集められないってことだけでできなくなってしまうことは、3年目は避けたいということで、形を変えてみようという意見が少しずつ出てきた。参加型にしてみたり、参加型にするとまたコロナでできなくなってしまうかもしれないが、大きな人を動かすのではなくて、本当に人数はたくさん集めなくても男女共同参画について勉強できる場をもう少し規模を小さくしてでもやってみようかという意見が少しずつ出てきた。少しずつ生まれ変わりながら男女共同参画の推進をお手伝いできたらいいなと思っている。

【会長】

それでは自由に骨子案についてご議論いただきたいと思う。

【委員】

私はさっきの人口動態でいうと60代で少し前に移住してきた人間なので、外から見るとどういう風に見えるかわかるが、魅力があるから移住してきたが、とてもいいところだと思って移住してきた。それはアンケート調査にも出ているが自然の魅力が非常にあり、都会では全く味わえないことが味わえるので、それはやはり大事にしていった方がいいと思う。

ただ若者のこともあるので年寄りばかり魅力があつては仕方がないというのはあるが、一つは時代遅れになってはいけないと思う。さっきのニューノーマルのような話もニューノーマルというのは、もともとはコロナのワードではなくて、リーマンショックの特に使われていたワードである。しかし、コロナになって世の中に流行ったが、もう元には戻れないって非常に大きな変化が起きている。非常に大きな変化に対応していくって意識が市民として持たなくてはいけないという気がする。それが若者たちにも、ひいては魅力あるまちになっていくのではないかと思う。マスクや手洗いだけじゃなくて、一番最近で大きく変化していきそうなのはやっぱり働き方だと思う。テレワークとかワーケーションとかが広まってきたので、そのところを市としてどう強化していくことは大事だと思う。自然の魅力があることは自然が好きな人は仕事と両立できる暮らし、ライフスタイルが作れる場所である。温泉もあるし、雪も降ってスキーもできるし、自転車もあるし、アウトドア系のスポーツなどをやっている人たちにとってはすごく魅力的で、もしそこで仕事と両立できる環境があれば、若い人たちにとっても魅力があるのではないかと思う。

また、黒磯の駅前是非常に良くなっているのではないかと思う。図書館も大変すばらしい図書館だと思う。だからああいうものが核となって、街の魅力を発信していくのと合わせて、ニューノーマルとかSDGsとかそういうものを市民意識の中で高めていく取り組みが大事なのではないかと思う。

もう一つだけ外から来た人から見ると、那須塩原は明治になってから入植してできた街なので、外から来る人にきわめて寛容な感じがする。そこはすごく良いところだと思うので、そういう魅力も無くさないように新しい時代の先端を走ってもらいたいと思う。

【会長】

おっしゃるとおり。私も家は東京のど真ん中にあるが、自然に野菜を育てながら暮らしたいと思っている。そういう意味ではこうした環境に住むのもいいなと思う。

【委員】

あと一つだけこれから先どうなるのかと心配なのは、自分が年を取っていつここで暮らしていくうえで不安なのは交通手段である。車が運転できなくなる、あるいは免許を返上したときにどういう風に自立的に生活できるのかというのが非常に気になるところで、このところは結構自動運転の取組を色々なところでやっているの、そういうものを参考にされるのが良いのではないかと思う。

【会長】

魅力は十分あるところなので、それをどううまく対外的にもアピールできて、計画の中でもそれを位置付けていくかが重要だと思う。

【副会長】

移住していただきありがとうございます。ある地区では、移住された方が起業して、その人が仲間の若い人たちをここに呼んで、またここで起業をするという、そういった方を市でも、助成金、スタートアップ事業という形で支援している地域もある。商工会でも、そういった形のものを見つけて、なるべく色々な企業の活性化を図りたいと考えている。

最近、塩原に週に1, 2回行っているが、西那須野と塩原は隣同士であるが、なかなか温泉に行く

などの予定がないとなかなか行くことがなかった。旧道あたり町なかを通っていくと、お土産屋さんが結構閉まっていたり、こういう状況だったのかと気付かされる。塩原も力を入れて活発化しないと、魅力度ランキングを上げるためにも、地域全体で、観光地もそうだが、空き店舗がいっぱいあるので、そういったものを古民家の活性化ではないが、そういったものに力を入れながら全体的に底上げしていく必要があるのではないかと考えている。

【委員】

究極の総合計画を作るべき目的として、人口を増やさなくてはいけないと思う。

一昔前に限界集落という言葉が総務省の方からでたが、正しく人口が減ってくれば、総合計画も作る意味がない。したがって人口をいかに増やすかということ。知ってのとおり人口増は社会増と自然増とがあるが、ほとんどの行政で社会増だけを一生懸命やっている。具体的な話をすると、離島では移住する方に200万円というすごい補助金を渡して、家をそのまま提供して、ということをやっているところもある。年間200人の移住者がいると、東京でもインターネットで説明会をしている。そういうところもあるので、大ナタを振るって、自然が美しいです、色々な四季が見られますなど小手先のことではなくて、やはり大ナタを振るときは振る。財政の中から給付金をパッと出すとか。那須塩原市に比べて、那須町の方がまだ移住してきたそれぞれの人が活性化して、情報交換をしたり希望者に説明会開いたりしている。そういったことで究極の目的は人口を増やすこと、そのためにメリハリをつけたような策を打った方がいいのではないかと考えている。

【会長】

社会増ばかりの施策をやっても人口全体はゼロサムなのであまり意味がない。先程の議論でもあったが、人口でいくと男性が多くて若い女性が戻ってこない、だから男性も結婚できない。日本の場合結婚しないと子供ができないという社会なので、いかに女性に戻ってきてもらうか。要するに若い女性に戻ってきてもらって、社会増というより自然増を考えていくことが重要。那須町と取り合っても仕方がない。自然増であれば日本全体としてのメリットになる。

【委員】

今回のこの4本のテーマを見たときに、栃木県の今年度の予算と一番下の県北の拠点づくりが国体と入れ替わっただけで4本なのかと思った。今年度の予算とこれから5年間、その時にこれでいいのかな、と思う。後は先程から話が出ているニューノーマルの言葉の使い方だが、ここで見たときに会長も地域づくりということは何度もおっしゃっている。4番目の県北の拠点づくり、ここはやはりまちづくりということだったが、正直「県北の拠点」と言ったときに県北の市町とのコラボレーションがあるのかなと思ったが、この場合は駅という拠点であった。市民のための安心に暮らせるまちだったら、そういうものを見た人達は、市民が楽しく安心して暮らせるまちに人が入ってくる、あとは若い仲間が楽しく起業したいという、その仲間たちがつながって入ってくることは結構全国のあちこちで見ているので、那須塩原市ならでは、金太郎飴ではない、そこを皆さんで揉んで、わがまちの魅力を出して、それを皆で作っていきこうという風になったらいいなと思った。このカーボンニュートラルとか、DX関係、どこまでこれで引っ張っていくのかなと思った。

【会長】

カーボンニュートラルのところは今栃木県でも気候変動適応計画を策定したが、これは県としても大きな施策になっているし、こういうのも那須塩原市は環境分野では県の中でも先進地なので、やっていくことは重要だと思う。

県北の拠点づくりは、県北地区の那須町と大田原市と那珂川町で、定住自立圏というものをやっ
ていて、県北の中心として那須塩原の駅を位置付けているので、要するに那須地域全体の玄関口と
いう形で進めていく、それが那須塩原市のまちづくりにつながっていくという考え方になる。

【委員】

個人的な意見になるが、若い人の認知度を上げる方法で、聖地巡りというものがある、サブカルで
ある。例えば、水戸でいうと「ガルパ」というアニメがあって、群馬県だと「イニシャルD」というものがあ
って、宇都宮だと自転車のももあった。日光でもそういったものがあり、それをやってほしいというわ
けではないが。あとは「〇〇フィルムコミッション」というものが栃木県庁は映画やドラマにも出てくる。
足利でもフィルムコミッションをやっているし、一つそういう取組も、瞬間的なものでしかないかもしれ
ないが、認知度を上げるには一つ手としてはあるではないか。

【会長】

瞬間的なものだから、ずっとそれが持続するわけではないけれども認知してもらうことの意味では
大きいと思う。そもそも知ってもらわないと始まらない。

他にはいかがか。よろしければここまでにしたいと思うが、最後に副市長お願いします。

【副市長】

色々な貴重な御意見ありがとうございます。皆さんが言うとおりに、魅力あるまちにするというのはどこ
でも同じ思いだと思う。ただ、どんな魅力なのかというのは、人それぞれ思うことがあると思うので、そ
れを作っていくかなくてはと思うが、この計画の案は総合計画ということなのでなかなか難しい。総合
計画だと一方を向くわけにもいかない、最終的にはいくつかの柱として方向性が出ればよいと思
っている。一言でいうのはなかなか難しいと思う。やはり皆さんの話を聞くと選ばれるまちにしなければ
いけないのは間違いないと思う。日本全体の人口が減っていくという中で、多くを望むことは難しい
と思うが、那須塩原に来てくれる人が多くなればよいかという風に思った。引き続きまたよろしくお願
いします。

(5) その他（審議会のスケジュールについて）

(資料5について事務局説明)

【会長】

ハードな日程になるが日程調整等よろしくお願ひしたい。

4 閉会